事例番号 018　まんがによるまち再生（宮城県石巻市）

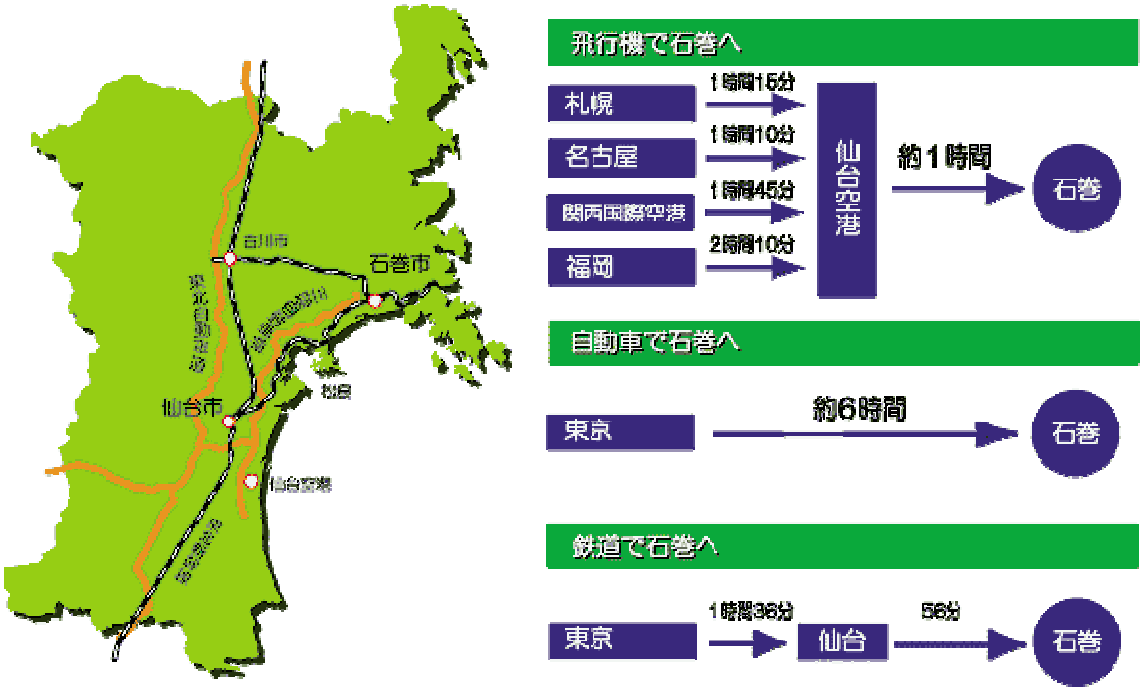
1. 背景

石巻市は北上川の河口に位置し、太平洋に面する人口 16.9 万人(2006 年)のまちである（人口では宮城県下第 2 位）。古くは米の積み出し港として発展した。近年は漁業と水産加工、製紙業を主な産業としている。

石巻市の人口はここ 15 年間、微減傾向にある（1985 年 12.3 万人、2005 年 12.0 万人、旧石巻市人口）。中心市街地では減少幅が大きく、それとともに空き店舗の増加なども顕著になってきている。また、中心部の道路・駐車場等都市基盤整備の立ち遅れ、核家族化・少子高齢化、大型店の郊外立地等も空き店舗増加の要因として指摘されている。

こうした中、石巻市は、1995 年に石巻市所縁の漫画家石ノ森章太郎の記念館を建設する計画を発表し、1996 年に「石巻マンガランド基本構想」を策定した。石ノ森章太郎の記念館の建設は 1980 年代後半からの市民運動を受けて決定したものであった。これを契機に、記念館やマンガランド構想をコアにしてまちの活性化を図ろうとする市民運動がさらに活発になった。そして 1999 年、「マンガランド構想を広げる会」（会員数 1,500）が発足した。また、同年、この会のメンバーが委員として参加して石巻市中心市街地活性化基本計画が策定された。同計画では「マンガ文化」や「マンガ的発想」が大きな柱になった。

一方、このような活動の中から、収益事業を柱としたまちづくり推進会社を設立しようという計画が生まれた。そして 2001 年、株式会社「街づくりまんぼう」（以下「まんぼう」）が設立された。本稿では「まんぼう」の概要、その活動内容である石ノ森萬画館の管理・運営、グッズショップ経営などの収益活動、音楽イベントなどの中心市街地活性化活動の概略を紹介する。



石巻市の位置　（資料：石巻市ホームページ）

石巻市の中心部 （資料：石巻観光協会ホームページ）

2. 目標

石巻マンガランド基本構想では、構想の目的を「マンガやマンガ的発想を地域活性化の手段として活用し、様々な交流を促進しながら、市民一人ひとりが「ロマン」＝夢をもてる石巻をつくる」こととしている。

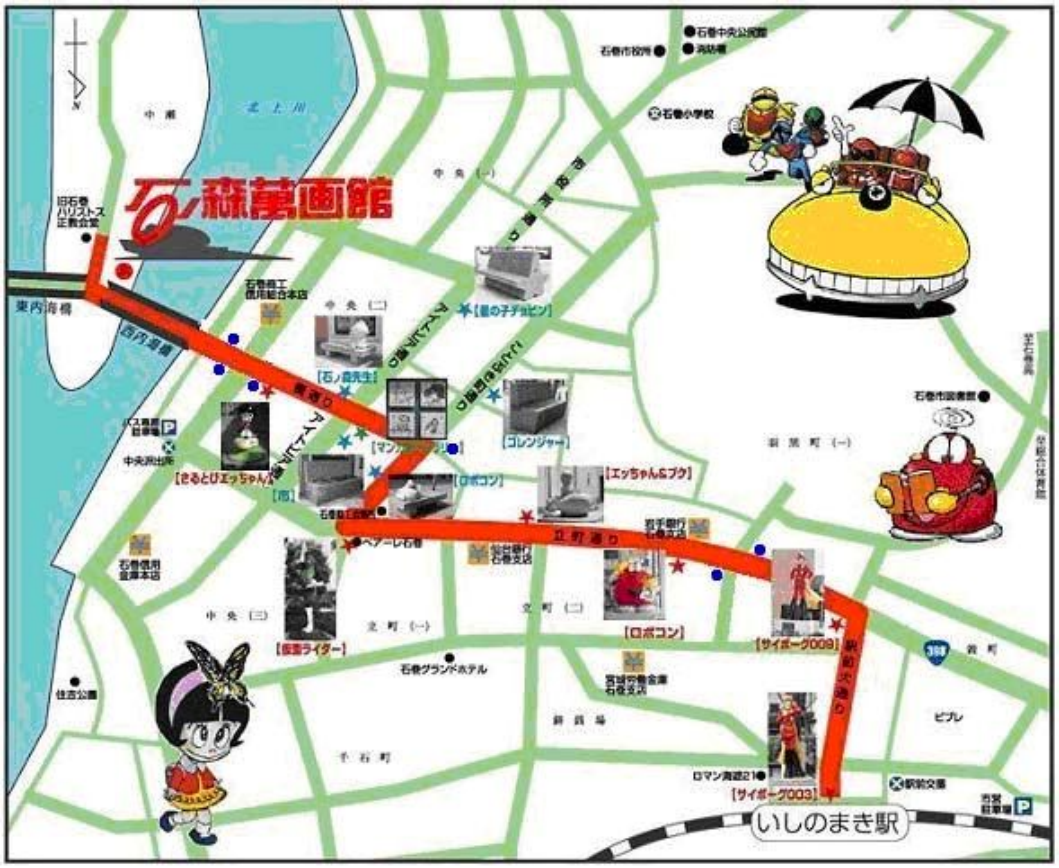
また、石巻市中心市街地活性化基本計画は、まちづくりのコンセプトを「浪漫商都ルネッサンス＝マンガ的発想が人を呼ぶ街づくり」としている。

これらに共通する目標は、マンガ文化を通じて人々が交流するようになり、また、市民が夢を持って活動できるようになることだといえる。

3. 取り組みの体制

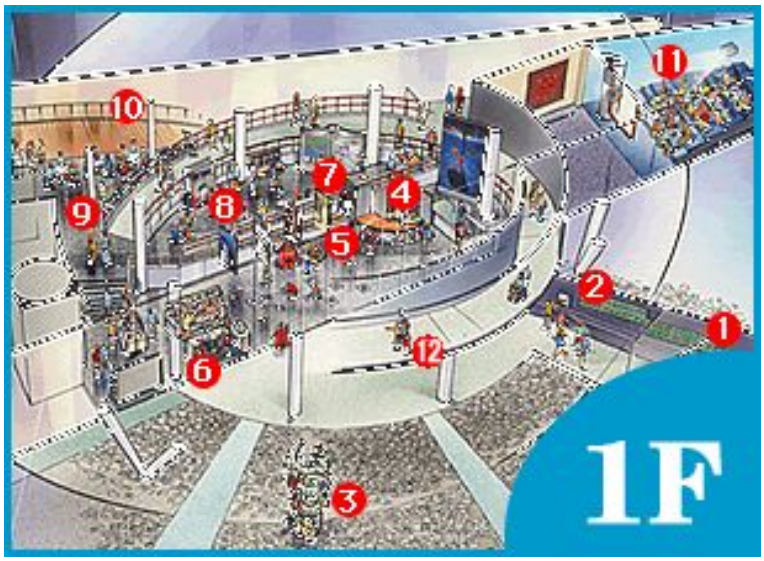
「まんぼう」と石巻市がまち再生活動の中心主体であり、石巻商工会議所、中心市街地商店街振興組合、JR、市民等が支援、協力している。

「まんぼう」は 2001 年に TMO として設立された。資本金（予定額 6 千万円）は当初は石巻市が 50%、市民運動の中心メンバーであった 20 人が 50%（1 人 150 万円）を出資する予定であった。しかし、市民から公募したがよいという提案があったためそうしたところ、多くの個人、法人、団体からの資金を集めることができ、結局石巻市が 50%（3000 万円）、中心メンバーを含む個人、法人、団体 128 が残り 50%を負担することとなった（資本金は現在も 6,000 万円）。「まんぼう」の主要事業は石巻市からの受託である石ノ森萬画館の管理・運営であるが、石巻市は「まんぼう」には人を出しておらず、同社は行政から離れた自由な活動を行っている。

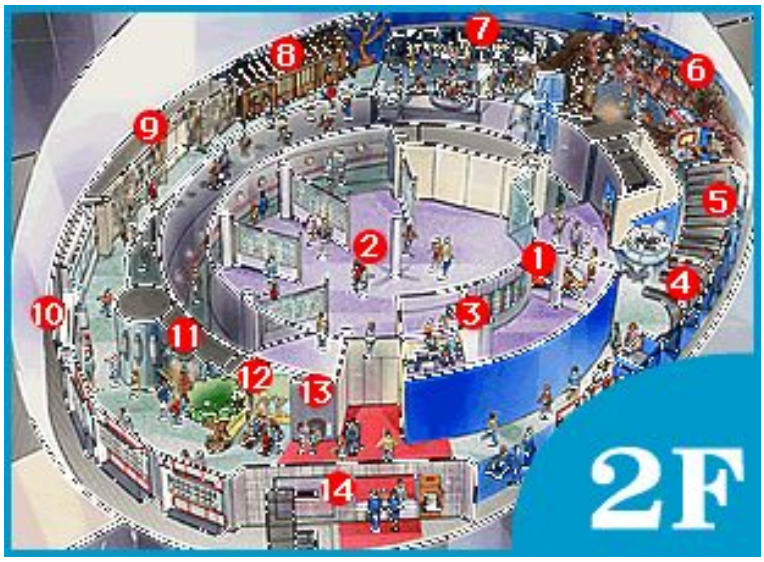


石巻駅、石ノ森萬画館、マンガロードの位置図　（資料：街づくりまんぼうホームページ）

石ノ森萬画館（写真：街づくりまんぼうホームページ）



1 階案内図
（資料：石ノ森萬画館ホームページ、以下同じ）
１．マンガを造りだす手　２．石ノ森の手　３．萬画仕掛け時計　４．総合案内　５．バナー、エントランスホール　６．グッズショップ「墨汁一滴」　７．マル秘指令・伝声官　８．石巻の歴史コーナー　９．市民交流コーナー　１０．桜のデッキ　１１．映像ホール　１２．スカルマン



2 階案内図
１．レセプション　２．企画展示室　３．作業スペース　４．石ノ森章太郎とマンガの歴史　５．トキワ荘の青春　６．サイボーグ００９の世界　７．仮面ライダーの世界　８．時代劇の世界　９．歴史の壁　１０．原画展示コーナー　１１．人造人間キカイダーの世界　１２．さるとびエッチャンの世界　１３．石ノ森章太郎のキャラクターたち　１４．HOTEL の世界

3 階案内図
1. 石ノ森章太郎の仲間たち　2. マンガ家入門　3. 映像ライブラリー　4. レファレンス　5. デジタルアーカイブ　6. 図書ライブラリー　7. 萬画館の仲間たち　8. マルチメディアでアニメーション　9. カフェ「BLUE ZONE」　10. 研修室

4. 具体策

(1) 「まんぼう」の活動

「まんぼう」の経営方針は絶対に赤字を出さないということであり、初年度から黒字を計上している。黒字のほとんどはまちづくりに還元するという方針であり、そのとおり実行してきている。

「まんぼう」の主な活動内容は、石ノ森萬画館の管理・運営、収益活動、中心市街地活性化の活動、駐車場の管理運営、空き店舗事業、イベント事業などである。

① 石ノ森萬画館の建設・管理・運営

石ノ森萬画館は石巻市が建設し、2001 年にオープンした。川に面して建ち、広さは 2,000 平方メートルある。建物のデザインコンセプトは宇宙に向かって飛び立つという石ノ森章太郎の宇宙船のイメージである。屋根は鉄板構造であるが、その形状から建築資材メーカーで作ることが難しかったため、造船会社が作った。建設費は 20 億円であった(うち 10 億は経済産業省の商業サービス業集積関連施設整備補助事業、5 億円は石巻市の特別起債)。

石ノ森萬画館の管理・運営は「まんぼう」が担っている。展示内容は、「マンガ文化の情報発信」を基本コンセプトに、ファミリー層を中心とした幅広い年代層に支持されるものとしている。2005 年の展示内容は以下の通りである。

回	開催期間	展 覧 会 名	主な対象
第 21 回	3/19～ 6/19	スーパー戦隊ワールド in 石ノ森萬画館	ファミリー(男性)
第 22 回	6/25～ 7/10	高砂淳二写真展 僕の出会った世界の海	市民・写真愛好家
第 23 回	7/16～ 9/ 4	クレヨンしんちゃん展	ファミリー(全般)
第 24 回	9/10～10/23	南久美子 ほっこりほっ展 in 石巻	女性全般
第 25 回	10/29～12/12	みやぎキャラクター大図鑑	地元企業・学生
第 26 回	12/17～ 3/12	ラスカルと世界名作劇場展	ファミリー(女性)

また、自由参加型のオープンワークショップを毎週土曜日に開催している。ワークショップの種類は、「気づき」「発見」「創作」をテーマとしたワークショップ、プロの漫画家やイラストレーター育成のためのワークショップなどである。

営業活動として、東北 6 県及び北関東の旅行代理店にへ働きかけている。また、石巻市、仙台市周辺の幼稚園・保育所約 30 箇所を訪問している。

以上のような展示活動、ワークショップ、営業活動が功を奏し、入館者数は 2005 年 6 月までに延べ 100 万人(年間約 25 万人)となった(なお、2005 年度の入場者数は猛暑と厳冬のため 20 万人弱であった)。2005 年度の萬画館事業部の総収入高は 58,607,320 円、石巻市からの委託費は 53,483,000 円(内運営人件費 34,387,165 円)となっている。

② 収益活動

「まんぼう」は以下の収益活動を行っている。

1) 墨汁一滴(萬画館1階グッズショップ)

萬画館オリジナル土産菓子 2 種(仮面ライダーずんだ餅、ホワイトショコラ餅)、萬画館公用車を

モデルにした玩具「チョロQ」等の販売、角川書店が発行した石ノ森章太郎萬画大全集全 500 冊（全 12 期セット定価 617,400 円）のインターネット受注販売（これまで 30 セット受注）。

2） カフェ・ブルーゾーン（萬画館3階展望軽食喫茶）

企画展に連動した新しいデザートメニューの開発、マンガキャラクターを使った小物に変化をもたせた付加価値の高いメニューの開発など

3） まんぼう壱番店（橋通りアーケード街）

萬画館と商店街の壱番店とを結ぶスタンプラリーの実施（2005 年の夏休み期間中）、プレミアム商品「金華サイダー」の販売など

4） 海斗ビジネス

「シージェッター海斗」のキャラクターを活用した石巻の PR（幼稚園・保育所訪問、テレビ出演、各地催事出演等）

5） マンガビジネス

石ノ森キャラクターを様々な商品のマーケティングに活かす事業（JA いしのまきが石巻産のブランド米のパッケージに「仮面ライダー」（ひとめぼれ）と「ロボコン」（ささにしき）を使用）

③ 中心市街地活性化活動（2005 年度）

「まんぼう」の設立趣旨である街づくり事業の推進を図るため、市民・関係団体から成る「街づくりまんぼう幹事会」を設置し、幹事会を 3 回開催した。また、地域通貨の研究を行い、研究結果報告書を石巻市長に提出した。一方、音楽で街を明るくしようとの主旨で「第 2 回トリコローレ音楽祭 in 石巻」を 8 月に開催した。

第2回トリコローレ音楽祭：石ノ森萬画館バス駐車場 （写真提供：石巻市）

第 2 回トリコローレ音楽祭：石巻駅前にぎわい交流広場　（写真提供：石巻市）

④　駐車場の管理・運営

石ノ森萬画館には身障者用駐車場以外の駐車場はなく、車での来館者には商店街の駐車場を利用してもらっている。これは、石ノ森萬画館への来館者にまちを回遊してもらうことも目的としており、来館者には無料駐車券を配布している。「まんぼう」の代表者は、「町の中を歩いていただく。とにかく人を動かせば物も動いて金も落ちるだろうと考えたわけです」と語っている。

「まんぼう」では、市内 26 の駐車場の精算機のソフトを統一し、どこの駐車場でも利用可能な共通駐車券の販売も行っている。このシステムは日本初の試みとして注目を集めている。

⑤　空き店舗事業

石巻市の中心商店街はシャッター通りといわれるほど空き店舗が多かったが、「まんぼう」が補助金を出して土産物屋等のテナント誘致し、現在では全ての店舗が営業している状態となった。

⑥　イベントの開催等

「まんぼう」設立時から毎年夏に「石巻マンガ灯籠祭り」を開催している。これは灯篭を中心街の街路や広場に並べて幻想的な光の川を創るものである。2005 年度は 3,000 個以上の灯篭が集まり、来場者数も 2 万人以上となった。今では石巻を代表する祭りの一つとして定着している。

また、まちの回遊性を生み出すためにスタンプラリーを実施している。石巻駅前でスタンプラリーの手帳を渡し、まちなかの魅力ポイントを周遊して萬画館へ着くという仕組みである。

その他、「まんぼう」では、セミプロの漫画家を招聘してスプレー缶でシャッターにマンガを書いてもらったり、飲食店、土産物屋、トイレなどの位置を記載したまちの案内地図「まんぼうマップ」を作成して配布したりしている。

石巻マンガ灯籠祭り　（資料：街づくりまんぼうホームページ）

石巻マンガ灯籠祭り　（写真提供：石巻市）

(2)　その他の組織の活動

石巻市は、拠点施設である石ノ森萬画館を活用してまちの回遊性を生み出すため、駅から萬画館までの間をマンガロードとして整備し、14 箇所にモニュメントを設置した。訪問者は駅からモニュ

メントを楽しみながら萬画館へ行くことができるという仕掛けである。

JRは、仙石線で電車前面と車内がマンガで埋められた「マンガッタンライナー」を毎土日祝日1往復運行している。車中のアナウンスもマンガキャラクターの「ロボコン」の声で行っている。これは「まんぼう」が仕掛けたものである。

(3) 効果

先に述べたように石ノ森萬画館への来館者は年間約 25 万人となったが、その効果もあって、2003 年に行われた通行量調査では商店街の歩行者通行量が全体的に増加し、10 年前の水準に戻りつつあることが確認された。マップ掲載の飲食店の利用客も増加し、多いところでは 200%、少ないところでも 50%(石ノ森萬画館開業前年との比較)増加している。石巻マンガ灯籠祭りが石巻を代表するお祭りの一つとして定着している点も評価されている。

5. 特徴的手法

地元所縁の漫画家を資源として、マンガという特定文化をまちづくりに多面的に活かしている点が特徴的である。それが市民からの発案と運動とが原動力になっていた点も特徴的である。そのような意欲が市民にあったため、まちづくり会社の資金集めが市民からの公募で行われ、予想をはるかに上回る応募があったわけである。

まちづくり会社の運営に関しては、収益を出すことを基本使命として様々な営業活動を展開し、その収益のほとんどをまちづくりに再投資している点に、自立したまちづくりへの強い意志が感じられる。同時に、様々な主体で構成される意見・情報交換の場の設置、地域通貨の研究成果の公表等からは、まちづくり会社の外に開かれた姿勢が感じられる。

6. 課題

石巻市としては、ハード面の整備はほぼ完了したので、今後はイベントを充実させることが課題であると考えている。まちづくり会社としては、まちづくりへの投資や新たな拠点作り、居住人口を増やすための対策などが課題であると考えている。

(参考・引用文献)

石巻市ホームページ
株式会社 街づくりまんぼうホームページ
板橋一男『港町、石巻に訪れたチャンスと変化』東北 21/2004 年 4 月、東北経済産業局
土井喜美男『市民主体の中心市街地活性化』東北 21/2004 年 8 月、東北経済産業局
株式会社街づくりまんぼう 『事業報告書(平成17年度)』同、2005 年